

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G302	都市経済学Ⅱ	3年	講義	2	吉田 肇
<b>授業概要</b> 本科目では、社会生活の場である都市に生起する具体的な課題についての基本的・普遍的な知識を習得するとともに、日本の都市における環境と経済・社会との相互関連性について学習し、様々な都市問題が発生するメカニズムについて、内外の事例を参照しながら経済的なアプローチにより、様々な情報を収集・整理・創造しうる能力を育成する。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> ① 都市に生起する諸課題への対応策を考えることができ、様々な分野で発生する都市問題に係る歴史的経緯と実践的知識を理解し説明できること。(DP2) ② 様々な都市問題やまちづくり事例を参考として、都市の社会現象について経済学的なアプローチで思考できること。(DP3) ③ 経済環境と調和した地域社会づくりの方策や手法を理解したうえで、様々な情報の収集・整理を行い、新たな情報として創造する能力を備え、自分たちのなすべきことなど自分の思いを述べるができること。(DP3)					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	都市問題と都市経済	「都市経済学Ⅱ」のアウトラインについてのガイダンスとともに、都市問題、まちづくりと都市経済の関係について学ぶ。			
2	成長する都市と衰退する都市	人口や産業による盛衰のメカニズムと成長都市と衰退都市の事例、わが国の将来人口の地域分布などについて学ぶ。			
3	東京一極集中と地域間格差	地域間格差の動向と大都市圏への人口流入、特に東京への機能集中問題、地方分権の方向性について学ぶ。			
4	国際化に伴う都市間競争	グローバル経済の進展に伴う国際都市の特徴、金融センター化で顕著な都市間競争について学ぶ。			
5	少子高齢化と都市問題	急速な少子高齢化によって引き起こされる、人口減少、都市のスポンジ化、社会資本ストックの老朽化など様々な都市問題について学ぶ。			
6	都市の機能低下と都市再開発	都市機能が次第に低下していく過程とそれに伴って生じる様々な都市問題に適切に対応していく都市再開発の方向について学ぶ。			
7	都市の交通問題	交通サービスの特性と公共交通機関を含めた都市生活にふさわしい交通対策、交通需要管理のあり方について学ぶ。			
8	都市の住宅問題・土地問題	中間試験（範囲：講義第1～7回）を実施し、その解説を行う。 住宅という財の特性と住宅供給や住宅着工統計の動向、わが国の居住水準と土地利用について学ぶ。			
9	都市の環境・エネルギー問題	また、地域レベルから地球規模まで、都市が直面する環境・エネルギー問題の解決方向とともに、持続可能な都市づくりの動向について学ぶ。			
10	都市の安全・安心と健康問題	都市の安全・安心につながる防災の安心、事故リスク、防犯の安心、環境の安心、QOL(生活の質)の安心、ユニバーサルデザインなどについて学ぶ。			
11	シャッター通り商店街と買い物難民	シャッター通り商店街発生のメカニズムと交通弱者や買い物難民を生み出す買い物環境について学ぶ。			
12	都市の市民活動・コミュニティ活動	地域とのつきあいが希薄化しているなか、町内会・自治会、市民のボランティア活動、NPOの取組など、都市における新たな公共セクターとしての活動について学ぶ。			
13	都市公共サービスの問題	市民社会サービスの提供や地方財政の特性を踏まえて、今後「選ばれる都市」の問題点と方向性について学ぶ。			
14	知識創造社会とコンパクトシティ	20世紀の工業化社会に代わって、今後進展すると考えられる知識創造社会の方向性や縮退のもとでのコンパクトシティのあり方について学ぶ。			
15	地方都市の都市問題	地方都市を取り巻く社会環境経済の変化を踏まえ、一連の都市問題と再生への方向性を取り上げ、それぞれの解決に向けた経済学的なアプローチについて学ぶ。			

準備学修(授業外の自己学修)

- ・東京圏に近い宇都宮市においても、地域を取り巻く社会環境が大きく変わりつつあるため、日頃から地域経済の動きを観察したり、新聞の地方面やテレビニュースなどから関連情報を得るなど、都市問題に関するアンテナを高くして関心や知識を高めておくこと。
- ・人の経済活動は、ある程度合理的な選択や行動によって成り立っている。宇都宮市役所の Web サイト「宇都宮市統計データバンク」(<http://www2.city.utsunomiya.tochigi.jp/DataBank/index.htm>)では、人口、国勢調査をはじめとする宇都宮市の主要な統計データが簡単に入手できるので、興味を持った分野を例に取り上げ関連する数字を追いかけてみると、情勢が客観的に見えてくるものがある。
- ・テレビの経済報道番組(例:テレビ東京⑦『ワールド ビジネス サテライト(WBS)』月曜～金曜 23pm～、NHK 総合①『クローズアップ現代』月曜～木曜 22:00pm～、テレビ東京⑦『ガイアの夜明け』火曜 22pm～など)から、都市問題に関して経済的な見方をしてみること。

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%)、中間試験・小テスト(10%)及び出席・授業態度(30%)に基づいて、絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
様々な分野で発生する都市問題に係る歴史的経緯と実践的知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市の社会現象について経済学的なアプローチでの思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
様々な情報の収集・整理を行い、自分たちのなすべきことなど自分の思いの表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回、講義内でコピー資料を配付する。

参考書等

- ・「図説 日本の都市問題」, 藤塚 吉浩(編集), 高柳 長直(編集), 2016年, 2,700円(税込)
- ・「日本の都市のなにが問題か」, 山崎福寿(著), NTT出版, 2014年, 2,592円(税込)

履修上の注意・学修支援

- ・都市経済学は、日常生活にきわめて関係の深い分野を対象にしている。都市問題に関する様々な疑問を、経済学の観点から考えてみようという内容であり、意欲を持って取組んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、私語やスマホ操作が多い場合には意欲がないものと解釈される。
- ・学修内容に関する質問や意見など、毎回配付する「聴講カード」に具体的に記入すること。カードへの記入内容を出席・授業態度の判断材料の1つとするとともに、寄せられた質問や意見は、実際に講義の中でも取り上げ、受講者全体にフィードバックします。
- ・事前に、「都市経済学Ⅰ」を履修していることが望ましい。